

2019-9-1

クジヤク 肝臓

米田 有希

提出機関 North Carolina State University College of Veterinary
Medicine, USA

症例 インドクジヤク 3歳 雌

病歴 脚に麻痺を伴う無気力な状態。
死ぬ数日前に白っぽい下痢をしていた。
剖検検査のため安楽殺。

肉眼病変

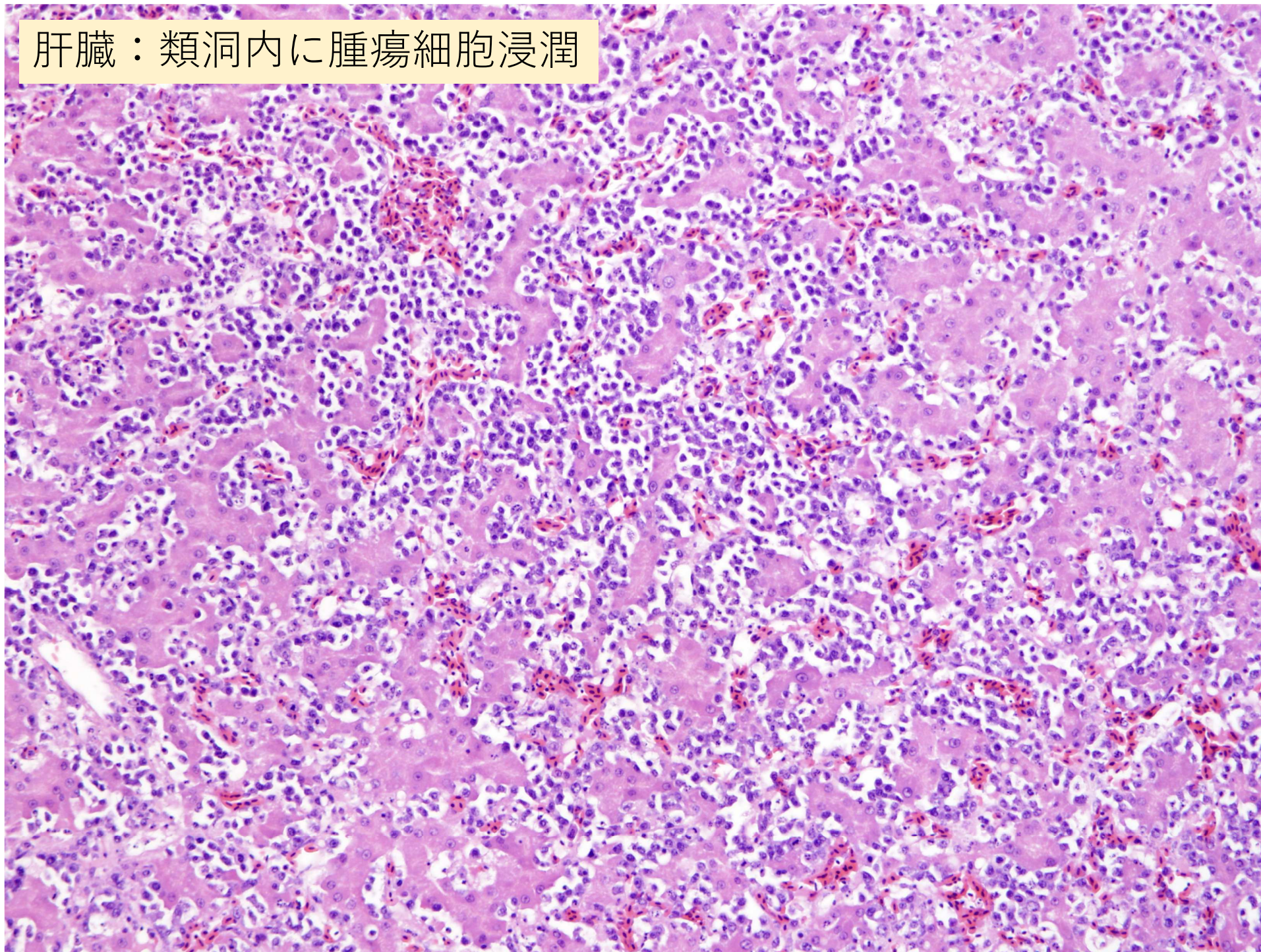
心膜：軽度に肥厚、白いチョークのような物質が表面に付着。
腎臓：色調は淡く、腎実質全体に白い粒状の物質が混在。
内臓の表面：少量の細かい白い粉末状の物質で覆われていた。
十二指腸内容物：全体的に白い粒状の物質が混在。
右股関節・左脛骨末端：周囲の筋肉まで及ぶ被膜下の出血。

検査成績

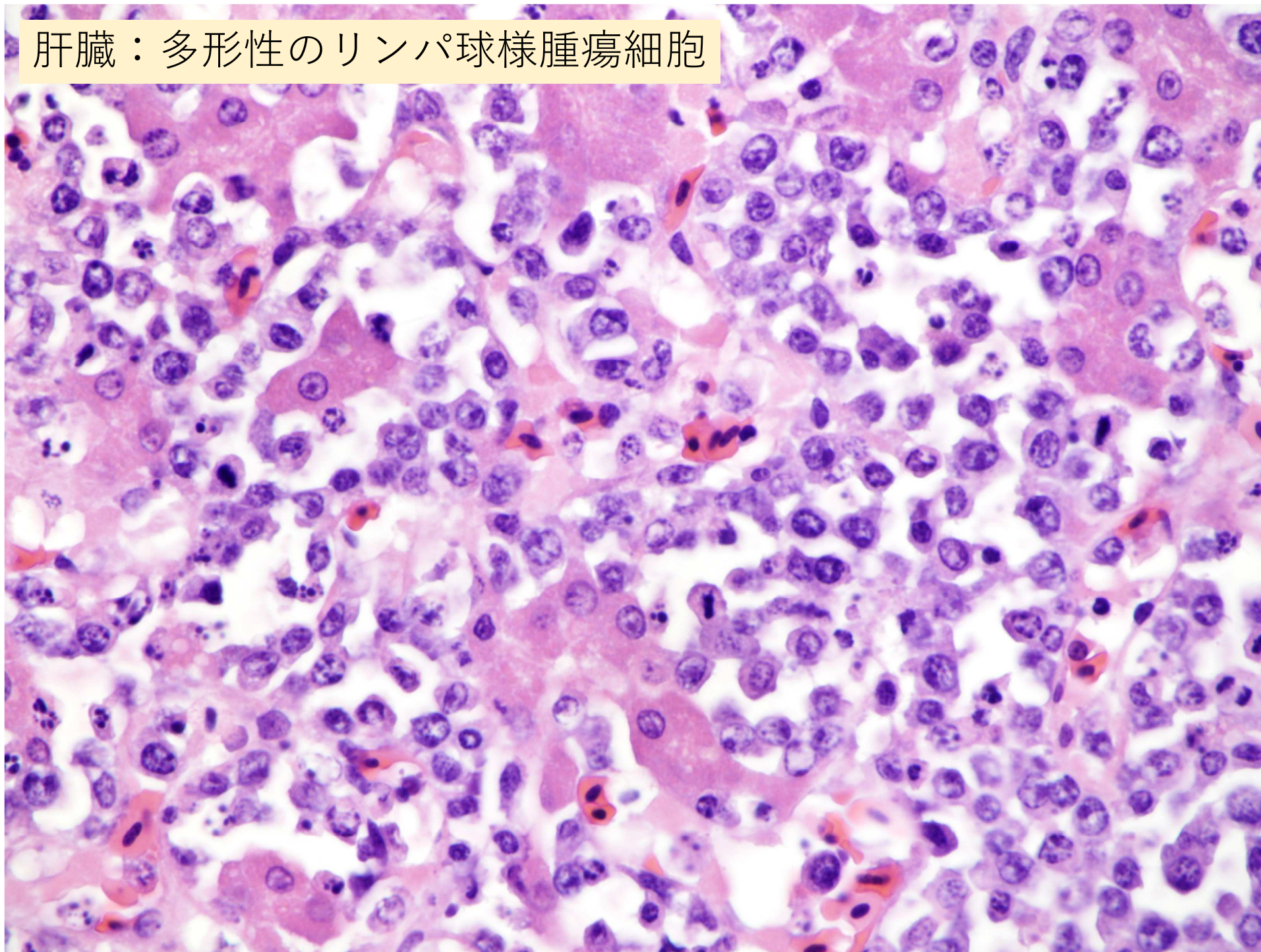
肝臓・腎臓：リアルタイムPCR マレック病ウイルス 陽性
肝臓：CD3抗体を用いた免疫組織化学染色 腫瘍細胞 陽性



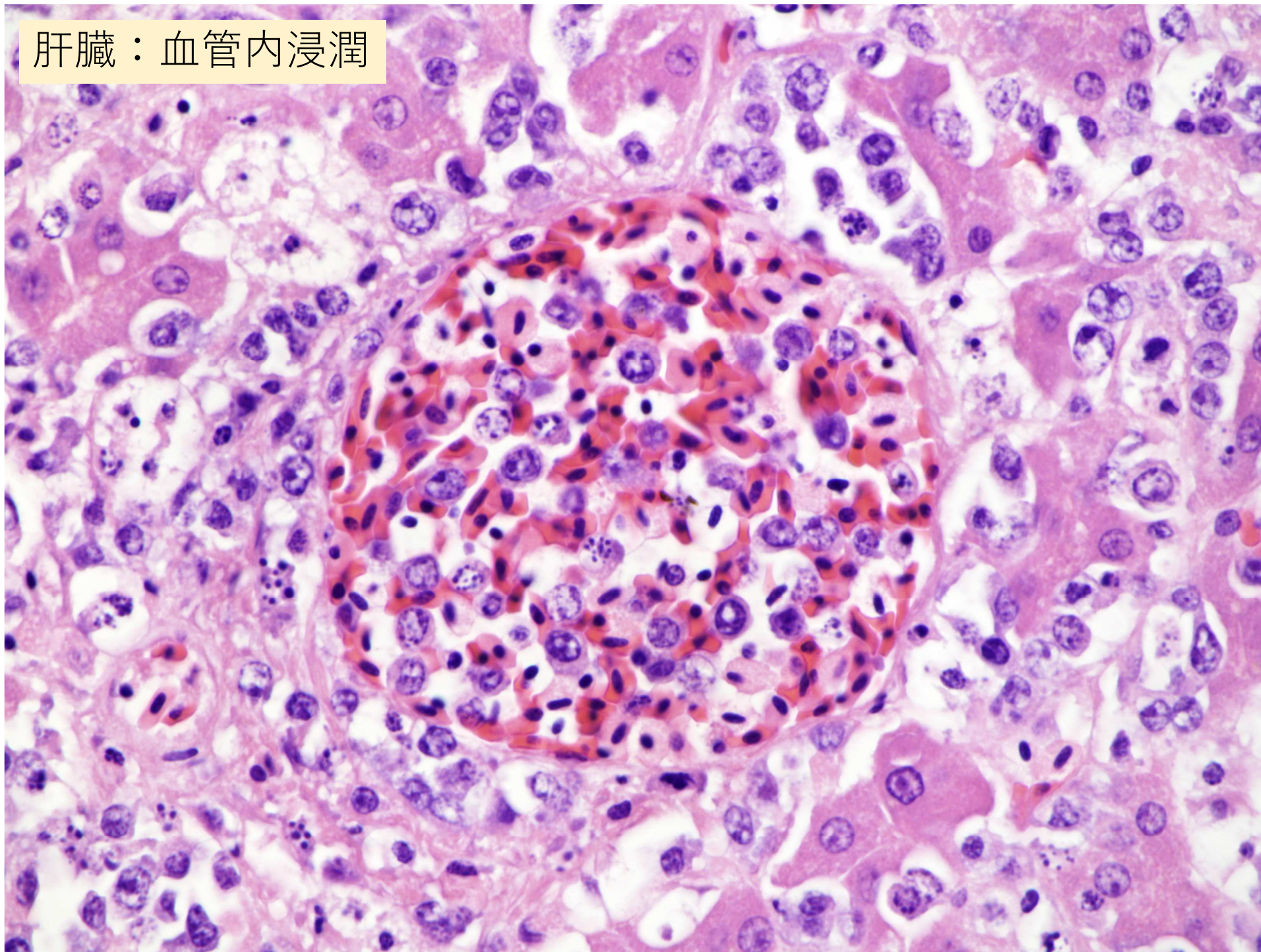
肝臓：類洞内に腫瘍細胞浸潤



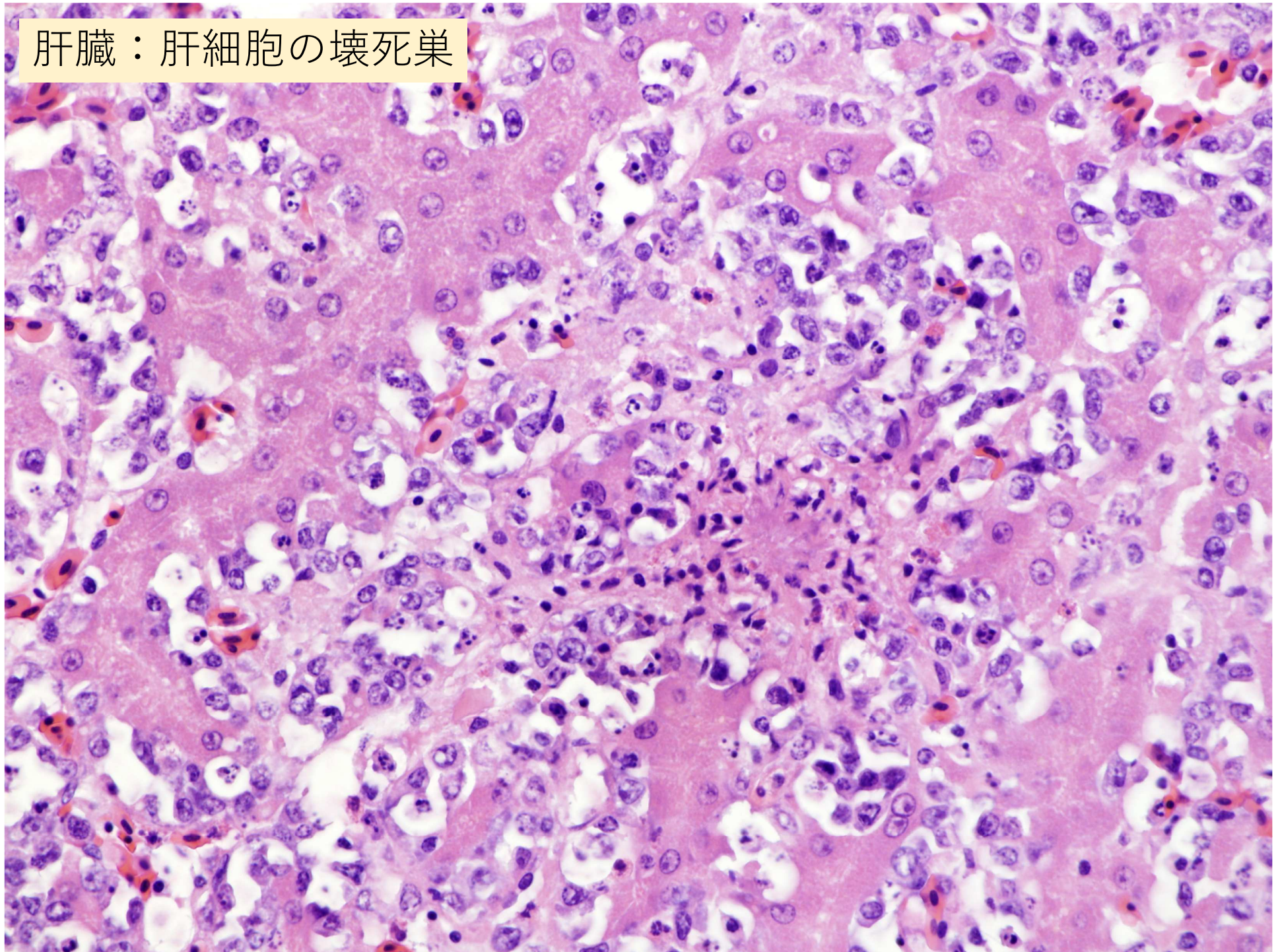
肝臓：多形性のリンパ球様腫瘍細胞



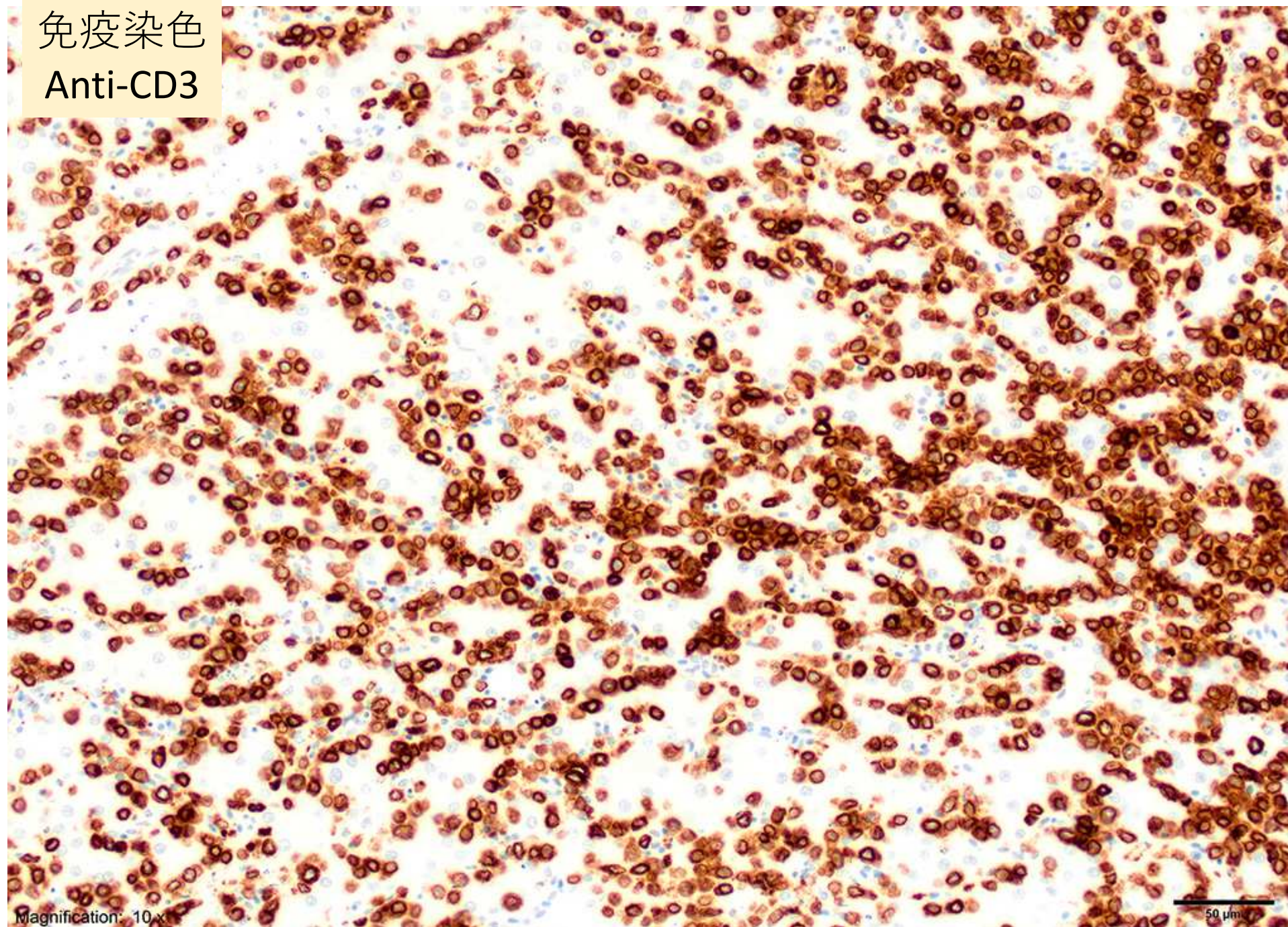
肝臟：血管內浸潤



肝臓：肝細胞の壊死巣



免疫染色
Anti-CD3



Magnification: 10 x

50 μ m

提出者の診断

肝臓：リンパ球様細胞浸潤、びまん性、重度。肝細胞壊死の散在を伴う

Liver: Lymphoid infiltration, diffuse, severe, with scattered hepatocyte necrosis.

JPCの診断

肝臓：リンパ腫、大細胞型

Liver: Lymphoma, large cell.

マレック病(MD)

ヘルペスウイルス科 α ヘルペスウイルス亜科 マルディウイルス属
血清型は1、2、3の3種類、血清型1のみ病原性あり。

分類	血清型	病原型	腫瘍原性
GaHV2	1	弱毒(mMDV)	低
		強毒(vMDV)	高
		超強毒(vvMDV)	高
		超強毒 + (vv+MDV)	高
GaHV3	2	非	
MeHV1	3		

古典型：末梢神経がおかされ、翼麻痺、脚麻痺、斜頸を認める。

急性型：末梢神経に加え、内臓にも腫瘍が形成される。

感染しても発症しないことが多く、ウイルス検査は確定診断にはならない。肉眼病変、組織病変から診断する。類症鑑別が必要な鶏白血病や細網内皮症とは病理組織検査で鑑別できる。動衛研ホームページより

MDと鶏白血病の鑑別診断

特徴	MD	鶏白血病
歳	6週齢以降	16週齢以降
臨床症状	頻繁に麻痺がおこる	非特異的
感染様式	水平感染	水平及び垂直感染
予防	生ワクチン接種、 鶏舎の衛生管理	種鶏群からウイルス を排出する鶏を淘 汰・摘発
肉眼的/組織学的所見		
末梢神経の腫大	頻繁	なし
ファブリキウス嚢	びまん性腫大・萎縮	結節性腫瘍
腫瘍組織を構成する 細胞	リンパ芽球、小・中・大リン パ球、細網細胞を含む多形性 のリンパ球様細胞	同一クローンの均一 な形態のリンパ芽球
関与する細胞	Tリンパ球	Bリンパ球

提出者コメント

- ・心臓、肝臓、腎臓に尿酸塩が沈着した肉眼的な内臓痛風は、腫瘍性リンパ球の浸潤によって引き起こされた腎機能障害の可能性が高い。
- ・確定診断は、病理組織学的検査、PCRによるMDVの同定、および/または免疫組織化学染色による腫瘍細胞のMATSA抗原の証明が必要。
- ・MDは一般的に家畜のニワトリに認められ、他の鳥では少ない。今回の症例はクジャクがMDに罹患した最初の報告と考えている。

JPCコメント

- ・確定診断はリアルタイムPCRにより決定するのが最善である。
(免疫組織化学染色は診断を絞り込むのに有用)
- ・2016年と2018年にクジャクのMDについて報告がある。